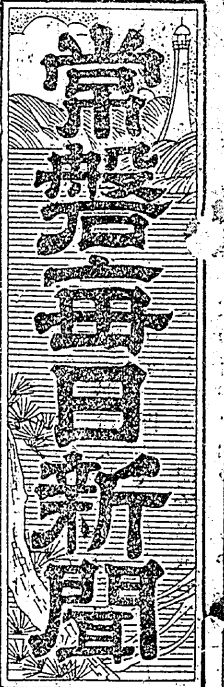


刊夕日九廿月八



定額一圓五角... 發行所 常磐毎日新聞社... 印刷所 常磐毎日新聞社

街で拾った戀

仲村 花 醉

ネオンの光りも、やうやく疲れた夜の十時半、淺草の活動街から流れ出る人の潮は、津波の様に、細い路次迄一ぱいに溢れて行つた。美津夫は、やつと此の雑踏を逃れて、淺草廣小路迄來ると汗ばんだ背筋が、いつの間にか、冷たくなつて居るのに気がついた。

雷門の前を真直ぐ抜けて吾妻橋の交叉點に立つた彼は幾度か右手を眺め乍ら、東京驛行の電車を待つた居た。其處には彼と同じ様に、電車を待つ人々が十數人、とり／＼の話しを交し乍ら立つて居た。

「まあ、小林さんぢやなくつて……」
「そう云へ乍ら、ミラネーゼのお召を着た二十才位の美しい女性が、彼の肩に手を掛けて馴々しく挨拶したと同時に振り返つた彼は『いや……あの僕住田といふものです』
と、電流の様に反應した其の時チン／＼と鳴り乍ら、電車が目前で停つた。幾人かの客を拾つた電車は亦、規則的に、自分の使命を全ふさす如く軌道を

さへして居た。丁後、淺草からの電車の中で知り合つてから、一ヶ月位経つた日曜だつた。前の日曜に約束して有つた二人は、日本橋のキンダタクシーに掛合つて、箱根までドライブした。山は笑ひ、海は空を抱いてあくまで着かつた。東海道——それは餘りにも懐しい路だ。彼の彌次喜多を思はせるのも少くない。自動車が軽やかな音をたて、新鮮な大氣の中を走つた。走つた。箱根に着いた二人は、小鳥の様に朝かになつて所々を見物した。二人が疲れさつて、双葉旅館に宿を取つたのは、彼岸の頂上に、眞赤な太陽が沈む頃だつた。

「随分くたびれたらう」
一室にこもつて、圓卓を挟んだ時、美津夫は勢はる様にそう云つた。
「え、でも妾幸福だつたわ」
そう云ひ乍ら彼女はシガ一に火を点じて差出した。
「有難う——いや、實際僕にも楽しかつた、僕は初めて人間らしくなつた気がする」
「そう云ひ乍ら大きく其の輪を吹かした。それから二人は湯にひたつて水菓子等むさぼつてからベットに着いた。
二人の枕元には暎咲きのスエトピーがほのかに匂つて居た。疲れて居たが初めて異性と、わけても美は

愈々舊盆も近、さました御新佛の戒名入提灯を御注文下さい

| | | |
|----|-------------|---------|
| 角形 | 經六、〇センチメートル | 一對房付十五圓 |
| 一 | 經五、三 | 同 九圓五十錢 |
| 二 | 經四、五 | 同 六圓八十錢 |
| 三 | 經三、七 | 同 五圓五十錢 |
| 四 | 經三、四 | 同 四圓八十錢 |
| 五 | 經三、〇 | 同 三圓二十錢 |

瓜形 經四、六 同 三圓五十錢
經四、二 同 二圓五十錢
經三、六 同 二圓

尚御好みにより値も品も色々に調整致します。御話下されば早速見本持参御同致致します。

平町四丁目 スガノヤ提灯店 電話 九五番

佛具の御用は まづ 榊屋へ!!!

御佛壇 御位牌類 奉仕値 大特賣

◎御位牌の戒名もお書き致します 平町二丁目 榊屋家具店

皆様 今年の御中元には何品を御撰びになりませんか。先づこの御家庭様からも喜ばれます 京茶器と 銘茶大勝園 お撰び下さい。

茶器 壺 金二十八錢より
大勝園 函 入 金三十二錢より
三丁目 大勝園 電 三九六番

一冊の代金で 御希望通りな 五冊の雑誌が 自由で讀める 川崎 回文庫 電 六三〇番 (申込次第規則書送呈)

吉田眼科病院 平針屋町 電話 六八番

舊盆會前の平町に

流れ出した二萬圓

詮衡方法に相當苦心した 平庶民金庫の低資貸出し

平庶民金庫の低利資金二萬圓は愈々舊盆を控え昨日より貸出しを開始した同資金の申込みは既記の如く二百六十二口金額六萬七千七百廿圓に達したので是れが割當詮衡に頗る苦心を要した模様であるが申込み者の内より

- 一、最近組合に加入せる者
- 一、最近組合より貸出しを受けたる者
- 一、償還成績の不良の者
- 一、相當資力を有し低利の恩恵を必要としな

い者等

の申込み九十一口を拒絶する事となり残り百七十一口に對し最高二百圓最低五十圓を限度に夫々貸出すに至つたものであると

失業者者數

平町の調査

平職業紹介所で最近調査した七月現在の平町失業者調査に依ると俸給生活の失業者數は男二十六、女十三計三十九名、日傭労働者は男百八十六、女八十四、計二百七十名其他労働者の男は二十五、女八、計三十三名で總計男二百三十七名、女百五名であるが是等失業者の以前の職業を見ると俸給生活者が

滿鮮から一筆

釜山公會堂にて伊東

四月末金洲に寄らうと思つたが止めて死房店に行き熊岳城へも寄つた、鐵道地帯にある小さな田舎の風景が穩かに展開されて居る然し驛の近くのそここゝに鐵條網や、塹壕のあり、處は何となく物凄、大石

四倉繭市場

益々好調

出荷を増して 値段が高調子

石城郡四倉繭市場は取引開始以來益々新高値を現し三日目の昨廿八日は前日の出賃數千四百七十貫を遙かに突破して一躍二千五百十五貫となり相場も最高四十三圓五十錢、最低三十圓三十錢、馴三十八圓といふ高値振りで取引毎に出荷を増すと共に値段好調を見せて居るので非常な活氣を呈し

江名港内

更らに堀下

石城郡江名町では本年度匡救工事として工費二萬三千圓で漁港内水深二米五十を三米五十に掘鑿し干潮時の水深三米とすべく本月上旬より漁船の出入口を締切つ

雪辱に燃えて

連日の猛練習

相當成績を期待される 平青年團の選手

平青年團より石城郡聯合青年團体育大會に出場すべき陸上競技及び武道の各選手は左記の如く決定し武道は柔道に青木目副團長自ら稽古臺となつて必勝を期し陸上競技は第三小學校々庭に石田伸六郎君指導の許に連日猛練習を続け柴田團長加藤部長も又スバイクを付けて練習に参加し選手を激勵し前年の惨敗を雪辱せんと

の意氣に燃えて居るから今度の大會には相當の成績を博し得るものと期待さる

△陸上競技

(百米) 柏原武三(四百米) 豊島豊(千五百米) 五十嵐正一(一萬米) 野口一(俄擔ぎ) 中條清(砲丸投) 佐久間芳夫(走高跳) 柏原武三(走巾跳) 佐藤兼介(千

産業組合の未だ

設立しない村が 本郡に十三ある

石城産業部會では豫ねてより組合擴充五ヶ年計劃案として一町村一組合の設置方を督勵中であるが未だ組合の設立なき町村は左記十三ヶ村であると

山田 川部 飯野 夏井 磐崎 荷路夫 貝泊 石住 永戸 箕輪 澤渡 三坂 上遠野

町村長會

協 議

既報石城町村支會總會は明廿日午前十時より平町役場會議室に行はれるが當日の協議事項左の如くである

- 一、町村吏員待遇改善の件
- 一、町村吏員且助會創立の件
- 一、評議員補欠選舉の件

平町人事

△六間門十五 大江松次氏
△四男英男 友部末藏氏四
△鐵道官舎 友部末藏氏四
△四軒町一五 遠藤五郎氏
△長女比佐子
△回 死 亡
△久保町二七 當時石城郡内郷村大字御座字下宿五
一、高橋喜兵衛(六四)

平町徴兵 合格氏名

既報平町本年度壯丁の検査は去る廿六七の兩日に亘り平第一小學校に於いて福島聯隊區司令官黒岩大佐の許に執行されたが其結果は壯丁百七十七名の内甲種合格者四十四名、第一乙種四十五名、第二乙種五十二名、丙種三十九名、丁種十名と決定した因に甲種合格者及び志願兵左の如くである

▽甲種合格(長橋)小野正二 酒井政十(古銀治)岩原宗司(研町)高野芳文 高野静次 佐々木左三(紺屋町)松田一 松本繁(田町)佐藤勇治(一丁目)關原司(四丁目)鈴木光治(新川町)林龍郎 草野丈夫(三倉)久田茂正 青木實(鍛冶町)小林義雄(南町)澤山武雄 山内勝一 古川壽一 佐々木正二 本間七五三吉 佐藤嘉雄 小川竹夫(大館)三瓶正治(番匠町)坂下幸藏(柳町)加藤金之丞(梅香町)加茂下治(浪立町)根本六三郎(大工町)丹野勝榮(舊城跡)伊藤寅雄(仲間町)岡時保

△適齡未滿志願(南町)岡田寅次郎(古銀治)小谷大三 佐藤清次 磯貝四郎(番匠町)鈴木泰三 齊藤貞作(白銀町)佐藤弘(五丁目)星武雄(中町)三浦幸雄(彌宣町)草野一郎(仲間町)武田常吉(正月町)和田兼正(材木町)栗城富士夫(研町)關傳介 河村健

熱湯の中に 轉げ落ちて

十八の少年大火傷

石城郡小名濱町字中坪魚肥製造所比佐由藏方雇人前田一郎(八)は去る十八日午後五時頃工場内で作業中足を滑らして傍らの熱湯桶に轉げ落ち大火傷を負つて生命危篤である

磐崎校同窓會 石城郡磐崎村小學校では去る廿

七日午前九時より同窓會を開き同村出身警中配屬將校大井川少佐の講演があつた

小年を殴る

平署に告訴

石城郡内郷村綴員柳沼南雄(三)は去る廿二日午後四時頃同村御臺境地内で好間

村字下好間高(武)と口論の揚句武の顔面を殴打して全治二週間の傷を負はしたので本日平署に傷害で告訴された

田町青年 盆踊の櫓

役場の前に

平町田町青年分團では舊盆中の來月四五六の三日間町役場前に盆踊の櫓を建てて豫定で本日町役場方に許可方を願出た

香取文江さん 個人舞踊發表

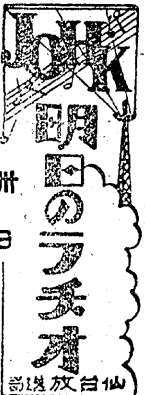
松竹樂劇部に歸る お名残りに平町で 郷土の産んだレビユー嬢

石城郡湯本町出身東京松竹樂劇部レビユーガール香取文江嬢は過般の所謂桃色筆談をして謹慎歸省中であつたが松竹との妥協が成つて近く再び上京することとなつたので同嬢後援會並びに磐城詩人聯盟會主催で來る九月一日午後七時から平町聚樂館に於いてこの郷土の産める同嬢の個人舞踊會を開催することになつたが何しる松竹樂劇部に於ける幹部級だけに一般ファンは勿論今から多大の期待を以つて迎へられてゐる

同窓生の喝采が 舞踊に志す動機

自身「荒城の月」に振付して

因みに同嬢は現代日本舞踊界の奇才と言はれてゐる松竹樂劇部舞踊係益田隆氏の愛弟子で松竹部内に於ける「我等か坊や」として人氣を集めて居るが警女在學中



明日の部

今晩の部

後六、〇〇(子供の時間) 「パイプハーモニカと童謡」線貫譽 線貫静子 後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(十四)「將門傳説の流」藤澤衛彦 七、三〇 講演「滿洲國より歸りて」永田秀次郎

明日の部

前六、三〇 夏期佛語講座(十七) 井上源次郎 前七、三〇 夏期英語講座(四の二) 佐川春水 前九、一〇 料理献立「鮎の干物」中村光三發表 前一〇、三〇 家庭講座「二學期を迎へるについで」小柴三郎 後〇、〇五 滿洲より 後二、〇〇 夏期講習「人形玩具の作り方(九) 西澤笛吹 後六、〇〇(子供の時間)

明日の部

前六、三〇 夏期佛語講座(十七) 井上源次郎 前七、三〇 夏期英語講座(四の二) 佐川春水 前九、一〇 料理献立「鮎の干物」中村光三發表 前一〇、三〇 家庭講座「二學期を迎へるについで」小柴三郎 後〇、〇五 滿洲より 後二、〇〇 夏期講習「人形玩具の作り方(九) 西澤笛吹 後六、〇〇(子供の時間)

明日の部

お話「七郷の都落ち」梅田育太郎 後六、二五 傳説と史蹟を採ねて(十五)「上毛三山に残る説傳」佐藤錠太郎 後七、三〇 趣味講演「松翁先生は萩がお好き」鈴木善四郎 後八、〇〇 歌謡曲 二三 吉その他 後八、二〇 浪花節「訴訟大膳」春日亭清吉 後九、〇〇 長唄新曲「浦島」唄杵家七代三味線杵家彌七上調子杵家七光

交通の危険 全く一掃

十月末日完成 勿來トンネル

目下工程八分通り進行した本縣と茨城縣との境界にある勿來トンネル工事は十月末日迄に完成の豫定で從來四メートルの道路が七米五に擴張されて危険は全く一掃された

綺羅星の如く... 平町に選士參集

縣下在郷軍人の 武術大會を開催

本縣在郷軍人分會の武術大會は來月廿四日午前九時より磐中校庭に開催され縣下の銃劍術及び軍刀術の選士が綺羅星の如く平町に參集し神宮競技出場を目指して覇を競ふと

貧困救済 共済委員協議

平町では廿一日午後四時より役場會議室に共済委員會を開き舊盆中の貧困者救済に就いて協議をする

鶏卵が 新高値

平地方の鶏卵相場は昨今中

- 回職を求める方
- △小役員 十九才 高卒 給料面談(湯本町某)
 - △事務員 二十三才 乙種商業卒 給料面談(湯本町某)
 - △料理人 三十一才 尋卒 給料面談(茨城縣某)
 - △雑夫 四十一才 尋卒 給料面談(平町某)
 - △女中 十六七才 尋卒 給料面談(平町某醫院)
 - △女中 三十位 委細面談(平町某カフェ)
 - △商店員 十六才 尋卒 給料面談(高久村某)
 - △コック見習 二十才 尋卒 給料面談(平町某)

